2000年ごろのパーソナルコンピュータの仕様を調べてみると、パーソナルコンピュータの進歩の速さに驚かされる。処理速度の目安になるCPU《パーソナルコンピュータの頭脳部分》のクロック周波数も、数百MHz〈メガヘルツ〉のものがほとんどで、1GHz〈ギガヘルツ・1 GHzは1000 MHz〉を超えた製品は、出はじめたばかりだった。このころのパーソナルコンピュータよりも今のスマートホンの方が高い処理能力を持っているというから驚くが、当時は不自由を感じることもなく、むしろ、処理能力の高さに驚いたものだった。では使うソフトはどうかというと、ワープロ、表計算と、ビジネスで使うソフトは、今とほとんどかわらない。しかし、現在ではそれぞれのソフトの機能が増えてきている。ソフトの機能のためにパーソナルコンピュータが進化するのか、パーソナルコンピュータの進化に合わせてソフトの機能が増えるのか、どちらが先かは難しい話だ。昔のソフトを今のパーソナルコンピュータで使用すればサクサク作動することも確かだが、一旦、新しいソフトの便利さを知ると、昔のソフトに戻る気がなくなる。まだまだパーソナルコンピュータの性能は進化し続けることだろう。